

自治

- 個人の自治：自主独立の精神を持って自らを治める = 自らを律する。Gentlemenであること。自重自治。
- 寮の「自治」：寮を自ら治める。自主独立の寮運営。
- 札幌農学校精神からすれば、寮自治は当然の思想である。

自治寮

- 制度としての恵迪寮の自治は自治寮としての寮規を定めた明治32年からである。
- 「寮の自治といふ事が我が寄宿舎の中心的精神を形成するのである。我らは、この自治制を押し立てるまでにはずいぶん苦心をして奮闘もし悪戦もした。（中略）しかし、自由がついに勝利者となった。
- 自由といふのは責任の異名である。偷安（とうあん 目先の安楽を貪ること）を事とするものが自由を悪魔視するのは、責任を自己の頭上に負ふを厭ふ卑劣極まる心情を暴露したものである。我らは自由を主張して自由を得た。これは不詳ながら我等の骨頭に責任を苟もせざる（いやしくもせざる いい加減にしない）精神あることを発表したも同然である。
- 自己の一身に全責任を引き受けて自由に言ふことも言ひ、行ふことも行ほうとする男らしい壮絶な覚悟がすなわち我が寄宿舎生活の中心的精神である。而して我が寄宿舎をして本学学風の発酵母たらしめんと努力するにつけて抱いている根本思想である」（学芸会編「東北帝国大学農科大学」）

自治の中断

- 制度としての自治が中断させられたのは「湖に星の散るなり」の昭和16年からである。
- 昭和15年の終わりには寮生の選挙に基づく委員会制度が廃止され、昭和16年からは、予科長（大学側）が任命する幹事会が寮のガバナンスを担うことに。
- 大学も臨戦体制に入った。
- 昭和16年12月8日 パールハーバー

指導部を新設し

惠迪寮改組要綱なる

[illegible]

一、生徒役員は豫科長の任命

一、指導部の新設

担部部長は従来の地位に當るのにして、更にその担部力を強化し、物産、農林、森田、海陸、配電、配水、門限その他の擔部部を全般に亘つて擔部せし、四處を無一として一處を四處に分ち各所を兼に天地、室を兼に、用具、吏員の担部せし給ふ。この担部部長は舊制にしてこれによりてより其の發生を發生に徹底せしむると同時に發生全體の費向を本據及び反轉せしむることを期す。

一、文化施設の擴充

[illegible]

一、懇親的集會

毎朝、二回全乳を食、牛乳係と技師習達の練習をするため毎週一回搾乳を昨年四月より開始してあり

昭和16年9月9日

昭和16年1月17日

昭和14年入寮岡田和雄氏の手記

- 「私が初めて味った第三十二回記念祭（昭和十四年）の感激は生涯忘れ得ぬものですが、それさえも、先輩諸兄が、真の寮祭は第三十回を以て既に終った、と慨嘆した通り当時は、時局の緊迫する所、かの自由謳歌の時代は、その幕をとじつつありました。
- （中略）
- かくて、翌年の記念祭は、皇紀二千六百年を祝うという名目もあって、内輪だけながらも盛大に行なわれ、殊に夜を徹しての大聖火祭は前年のそれを凌ぐ勢でした。しかし一見華やいだ宴の蔭に自由主義の終焉を身をもって感じ、その擁護に挺身せねばならぬという使命感と、反面、国家存亡の危機を背負って立たねばならぬという憂国の熱情との相剋に悩む若い群像をそこに見出すことができたでしょう」

昭和18年入寮、後に北大農学部畜産学科教授 となった安井勉氏の手記:

- 「昭和十八年入寮の筆者達の時代、恵迪寮には委員会はなく、幹事会が代りに存在していた。この時代、寮には制度としての自治はなかったのである。当時の記録（各部日誌、恵迪寮小史など）を読むと、その時代の寮生達が、消えかかる自治の灯を、心から心へと伝承してゆく苦労を偲ぶことができる。
- 「見よ東海の空明けて」と景気のよい軍国主義教育を受けてきた新丸にとっては、自由とか自治とかいう言葉が平気で交される恵迪寮での生活は、それだけで十分、過去の旧制中学校時代の教育からの訣別を筆者らに迫るものであった。「寮規としての自治は失われても、我々から自治と自由の精神を奪うことはできない」と嘯（うそぶ）いて軒昂として過した日々が懐しく思い出される。日常的なストームの禁止やみだりな寮歌高唱の自粛が求められ、上意下達機関としての指導部（修練部）の設置が押しつけられた幹事会ではあったが、その中でも寮歌は歌い続けられ、毎年の寮歌は産み出されて、自治活動の営みは、若者の胸の鼓動が続く限り拍動しつづけていた」
- この年、クラーク像供出、学徒出陣

